

<STEP 1 事例 情報収集と環境負荷の“見える化”>

日々の細かな努力で電気代を削減 (株式会社ちきりや)



Q

取り組みの背景・きっかけ

A

- ・お茶の製造工程では、茶葉の冷蔵保管に最も電気代がかさむことを課題に感じていた。
- ・東日本大震災以降、電気代が高騰するなか、茶葉を保管する冷蔵庫の電気代を削減したかった。当社の静岡工場が利用していた中部電力の浜岡原子力発電所は再稼働の見通しが立たず、電気料金が変動しやすい状況にも不安を抱えていた。
- ・携帯電話会社から新電力と節電チャレンジプログラムの提案を受け、取り組むことにした。

Q

取り組みを進める上で工夫したこと・苦勞したこと・利用した施策

A

- ・新電力の節電チャレンジプログラムでは、毎月の電気代使用量を見える化し、節電後の電気代のシミュレーションも提示してくれた。
- ・各月の電気代を「見える化」したうえで、こまめにエアコンフィルターを掃除したり、主電源をオフにして待機電力を抑えるなど、コストをかけない取り組みからはじめた。
- ・現在は、廃棄物削減など電力以外の環境対策にも積極的に取り組んでいる。  
例えば…捨ててしまう茶殻や廃棄物として処分していたさつま芋のツルを有効活用した商品の開発、ペーパーレス、プリンターの設定変更（基本的に白黒印刷）

Q

取り組みの成果とメリット

A

- ・使用電力量を対前年比で19%（3カ月平均）削減できた。
- ・当社のSDGsの取り組みをホームページで見たり、NHKやKBS京都「京biz」で取り上げられた放送を見た複数の学生から、当社の活動内容や取り組み状況をヒアリングをしたいとの連絡があり、企業ブランドの向上につながっている。

Q

SDGs への取り組み

A

- ・日常では捨ててしまう茶殻や、さつまいもを収穫した後に廃棄物として捨てられるツルと茶葉を使った商品を開発。
- ・上智大学臼杵教授から、「アルツハイマー病(AD)」の主原因である成分を抑制するとされる抗体医薬成分ポリフェノールが、サツマイモの茎・葉に含有するとお聞きした。サツマイモ収穫後の葉・茎の部分は、主に廃棄されることが多く、当社として健康茶に出来ないかを調査し上市した。



株式会社ちきりや（代表取締役 米内政明）

京都市中京区、従業員：33人、事業内容：茶製造販売

(<https://kyo-chikiriya.com/sdgs/>)